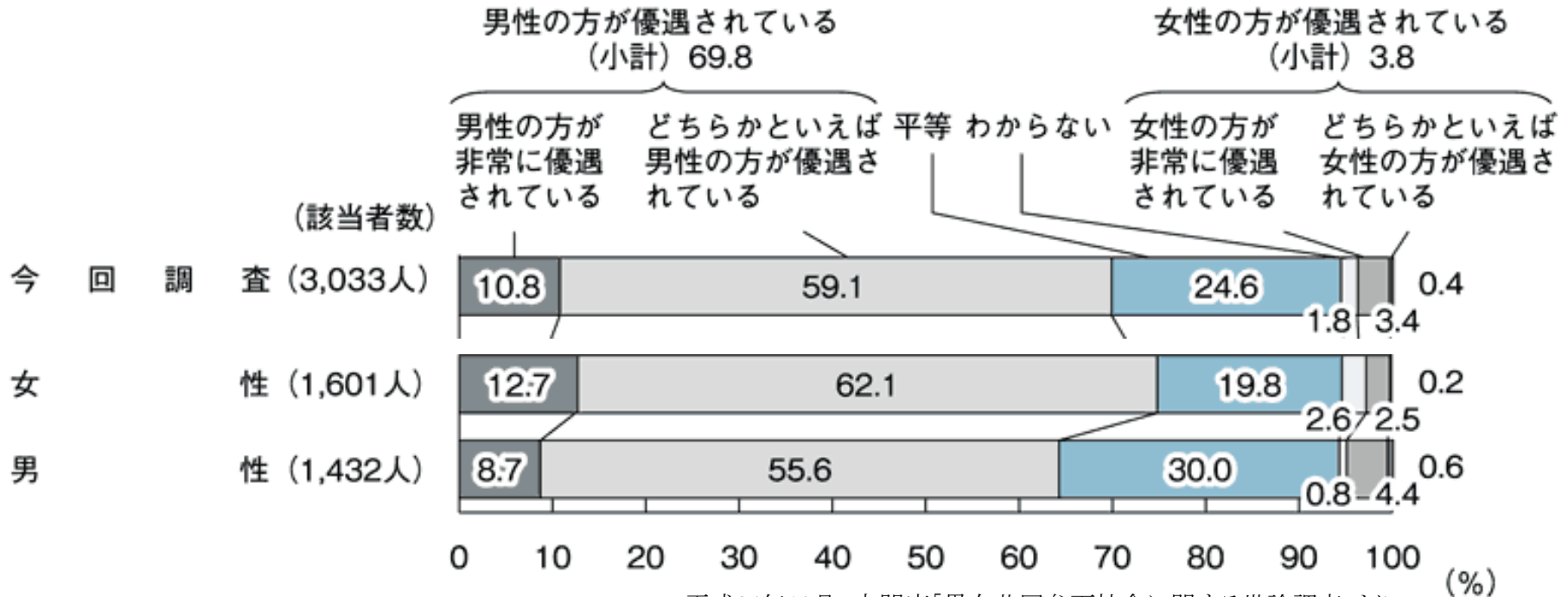


*女性より男性の方が優遇されている！？

男女の平等感(社会全体)について

「男性の方が優遇されている」

と回答した国民の割合は



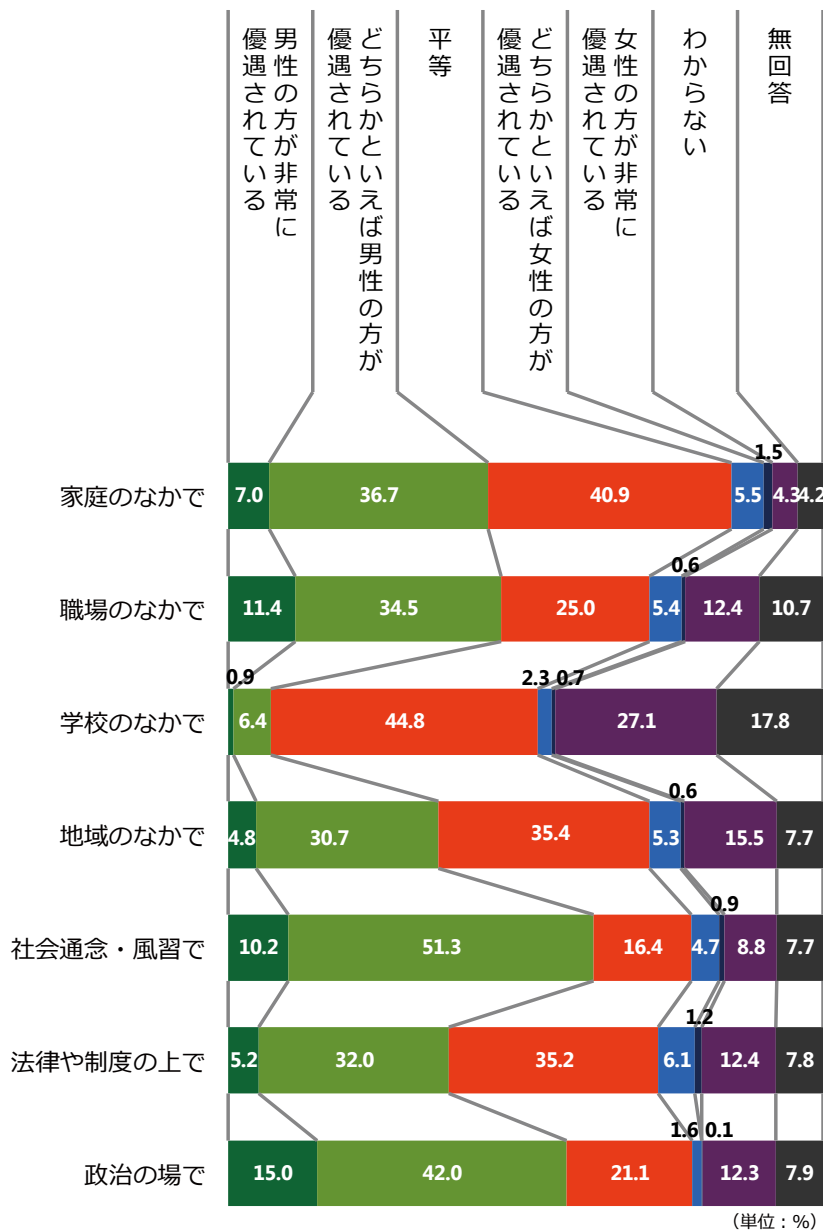
69.8%

が「男性が優遇されている社会」だと感じている

*女性より男性の方が優遇されている！？

東員町

男女の平等感について



《男性の方が優遇》

《平等》

家庭：43.7% > 40.9%

職場：45.9% > 25.0%

学校：7.3% < 44.8%

地域：35.5% ≒ 35.4%

風習：61.5% > 16.4%

法律：37.2% > 35.2%

政治：57.0% > 21.1%

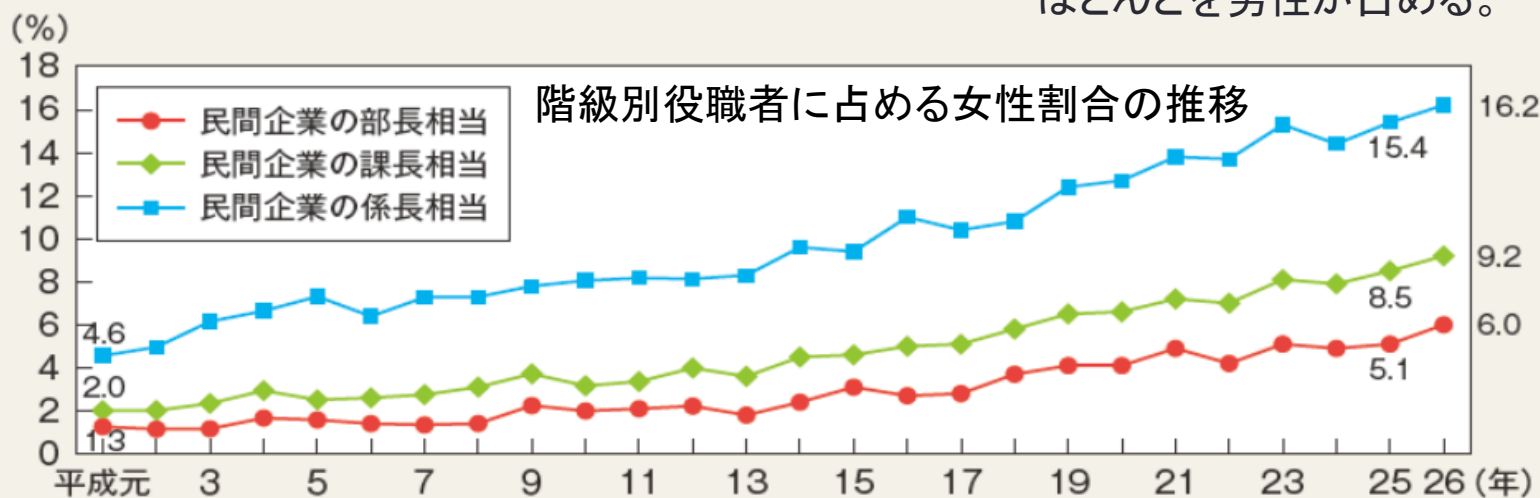
★「平等」の割合が高いのは「学校」のみ

東員町「男女共同参画に関する町民意識調査」(平成24年3月)

*女性より男性の方が優遇されている！？

日本の人口の約 **半分は女性** なのに…

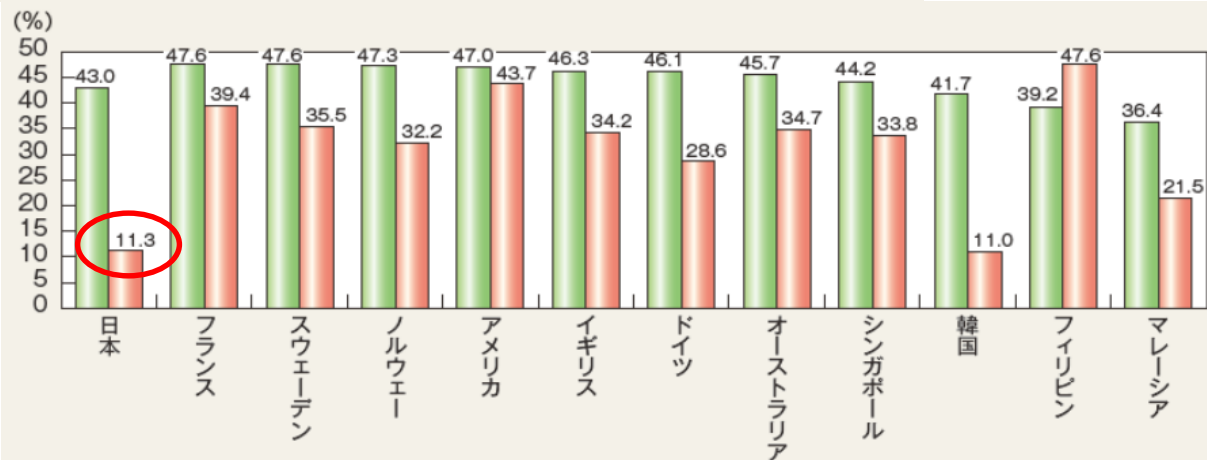
議員や会社の役員、自治会などの役職者はほとんどを男性が占める。



部長相当で
6.0%(H26)

就業者および
管理的職業従事者における
女性割合

わずか
11.3%(H26)



内閣府「男女共同参画白書」(平成27年版)より



**ものごとを決めるのは男性中心
女性の視点や意見が活かされない社会**

*男女共同参画社会の実現を妨げる壁

【ジェンダー】

「社会的・文化的な性別」
特定の社会が男性及び女性に
ふさわしいと考える
社会的に構築された**役割**や
態度、行動、属性を指す

(世界保健機構(WHO))

壁

【固定的 性別役割分担意識】

個人の能力や個性に留意せず
「男性だから~」
「女性だから~」など
変化させられない要素で
「枠」をつくり
その枠により**「役割」**を
決め付けてしまうこと

おしとやか

に

でしゃばるな

子どもの
世話は
女の役割

仕事より家の
ことを大事に

男は強く!

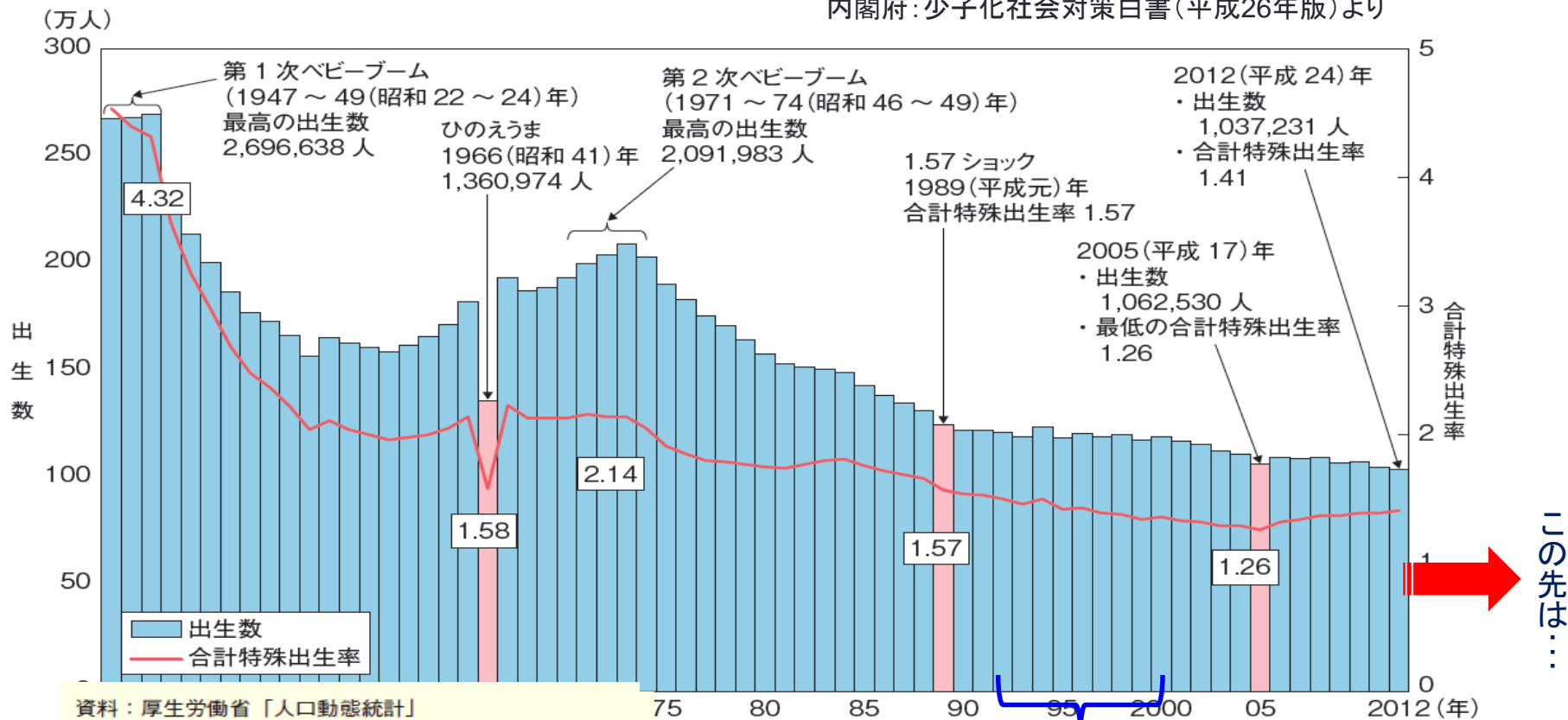
男は
泣くな!

めそめそ
するな!

どんどん
出世!

* 出生数・合計特殊出生率の推移

内閣府：少子化社会対策白書(平成26年版)より



資料：厚生労働省「人口動態統計」

注：1947～1972年は沖縄県を含まない。

2010年の出生数及び合計特殊出生率は概数である。

「第3のヤマ」がこなかった

主な理由は...

未婚化・晩婚化・晩産化・高齢化

が進んでいるため

背景

ライフスタイル・価値観の変化(個の時代)

経済的要因・雇用の不安定化

医療の発達

など

*これからの人口予測

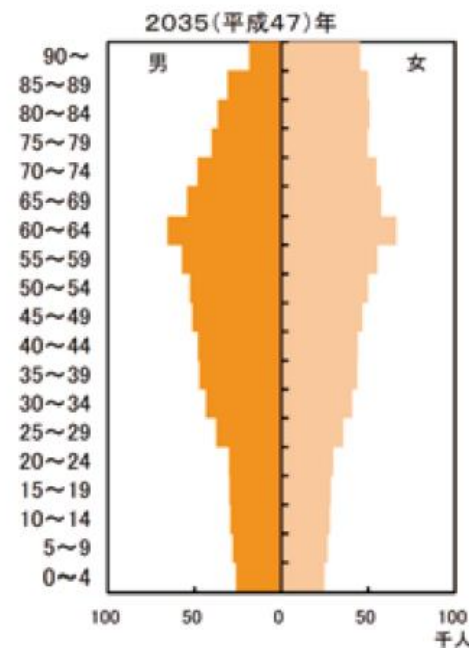
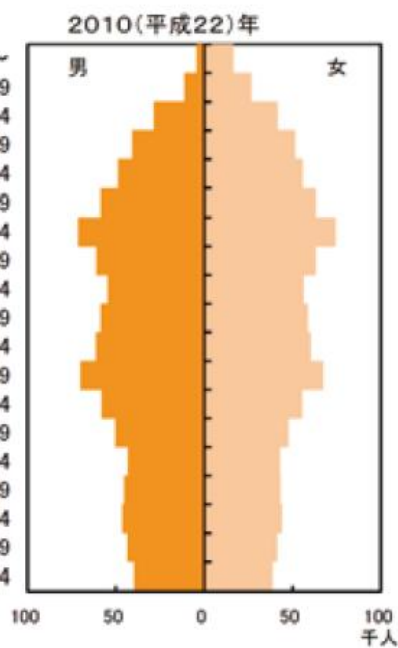
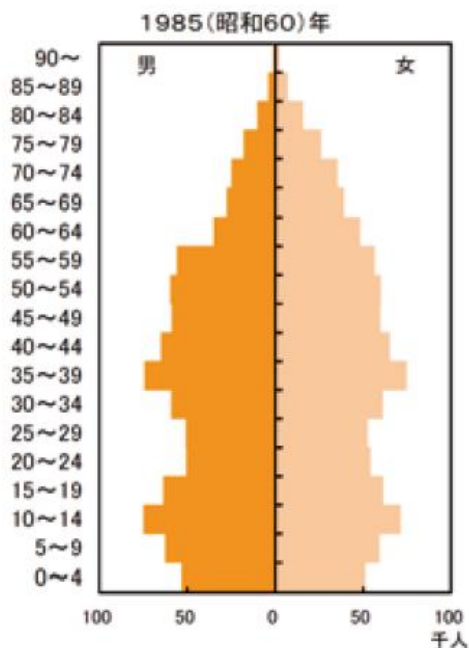
三重県 人口予測

国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)』より
 単位(千人) ※千人未満四捨五入

三重県	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)
0~14歳人口	267	249	224	199	182	171	162
15~64歳人口	1,199	1,156	1,094	1,051	1,013	961	902
65歳以上人口	401	449	506	529	531	533	536
合計	1,867	1,854	1,823	1,779	1,725	1,666	1,600

約20年後 ⇒ 人口：約**160.0**万人（約22.3万人減） 高齢化率：33.5%

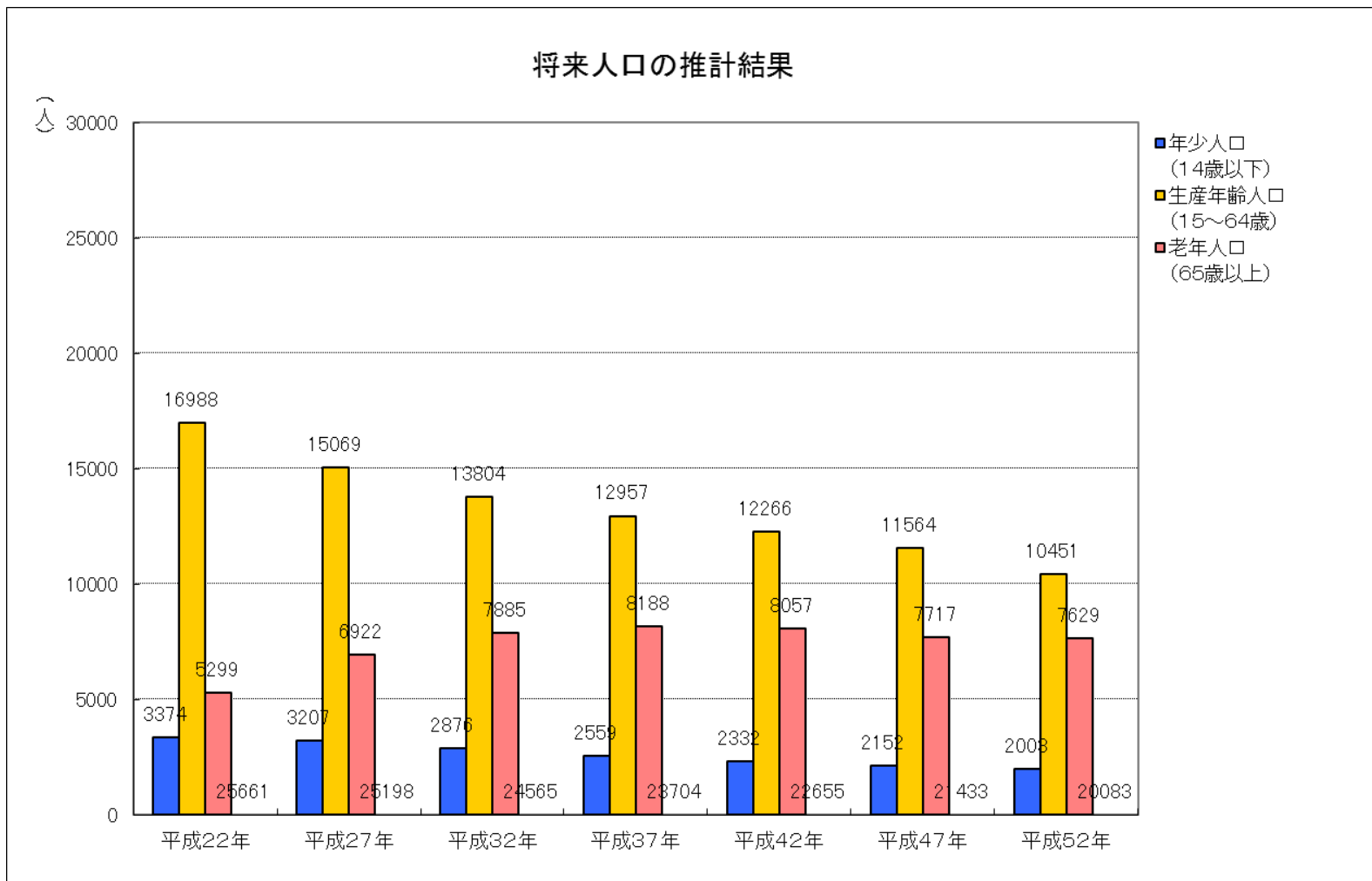
人口ピラミッドの推移



「みえ高齢者元気・かがやきプラン 参考資料1 高齢社会の現状と将来展望(三重県)」より

*これからの人口予測（東員町）

東員町将来人口推計・・・老年人口の割合が増えていく

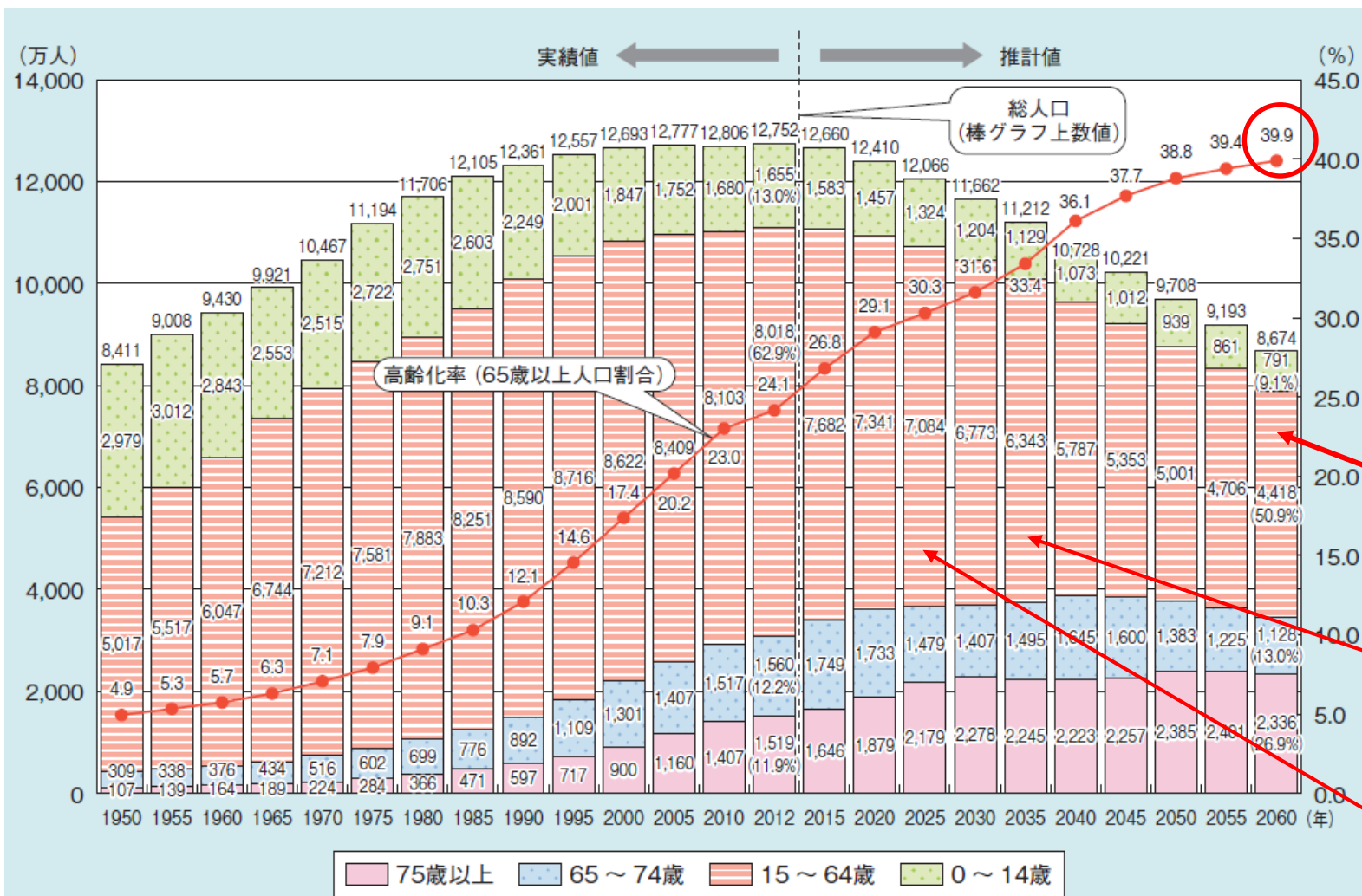


【出典】 国立社会保障・人口問題研究所 男女・年齢(5歳)階級別データ-- 『日本の地域別将来推計人口』（平成25年3月推計）

*これからの人口予測

4区分人口と高齢化率の推移・予測

平成25年版「高齢社会白書」(内閣府)



**2060年
高齢化率
39.9%
(全国)**

**労働力人口
2012年比**

**2060年
55.1%**

**2035年
79.1%**

**2025年
88.4%**

資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2012年は総務省「人口推計」（平成24年10月1日現在）、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

*待ち受ける「総介護」時代

現実問題として…

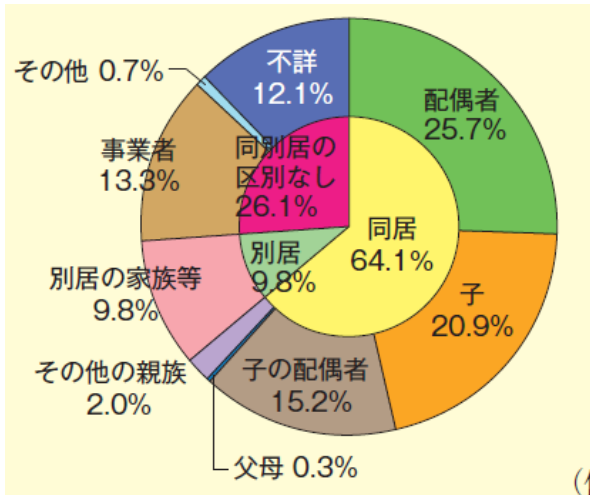
共働きの時代、少子化、人口減少社会 …… みんなで社会参加 & 家事・育児
 個の時代、結婚しない人、離婚 …… 「おひとりさま」の増加

(生涯未婚率 女性は10人に1人、男性は5人に1人)

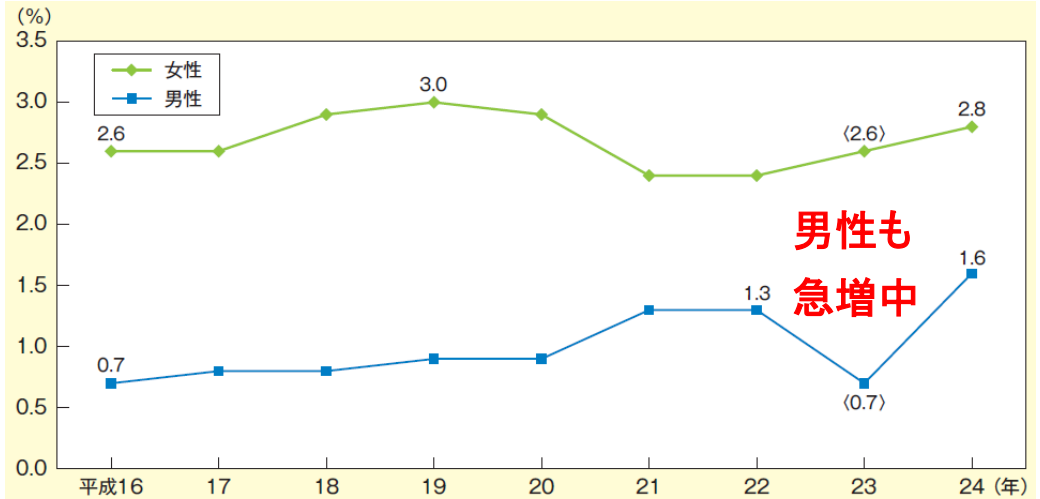
高齢者の増加、長寿 …… **全国総「介護」時代の到来**

息子・娘ひとりで、
 親の介護をする時代が
 すぐそこに!

要介護等からみた主な介護者の続柄



介護・看護を理由に前職を離職した完全失業者の割合(男女別)



(備考) 1. 総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。
 2. 平成23年の<>内の割合は、岩手県、宮城県及び福島県について、総務省が補完的に推計した値を用いている。
 3. 離職した完全失業者とは、前職のある完全失業者のうち、前職を辞めたことを理由として求職している者。

同居の主な介護者の男女内訳

女性 69.4% | 男性 30.6%

資料:内閣府「男女共同参画白書」(平成25年版)

(備考) 厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成22年)より作成。

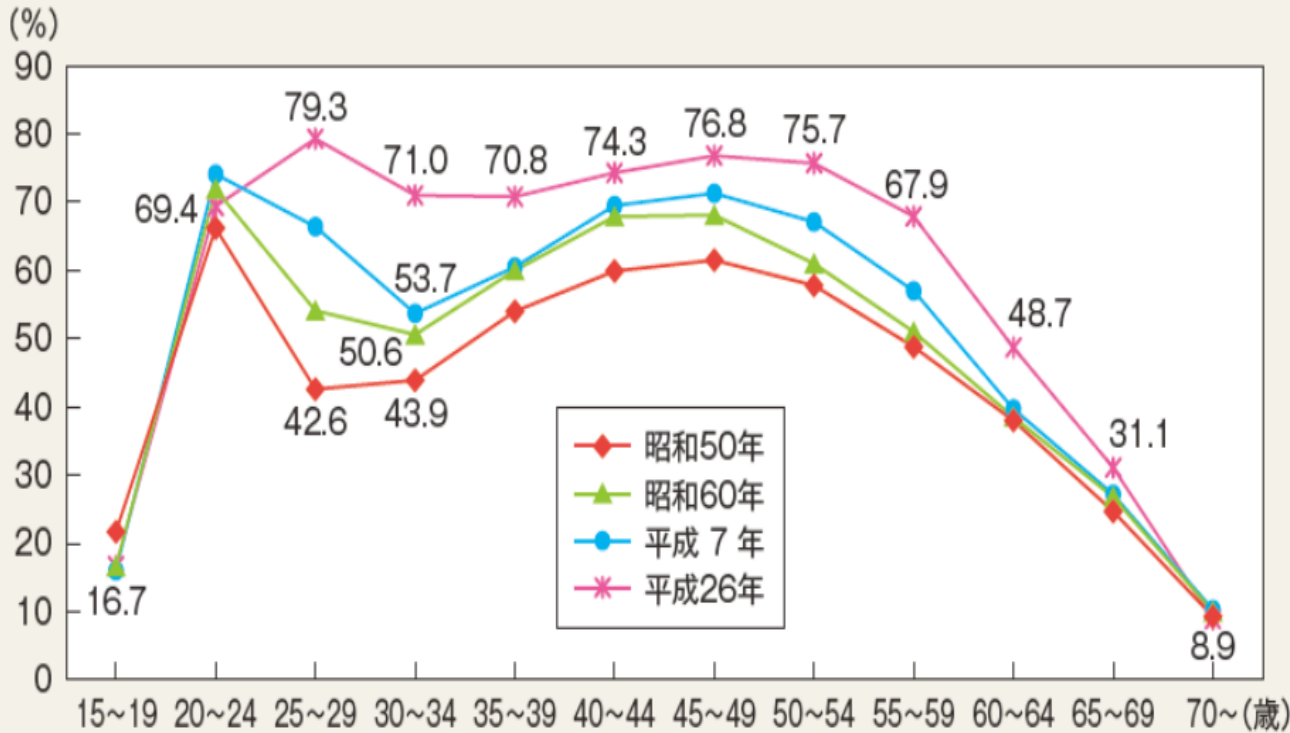
*女性の就業について

女性の年齢階級別労働力率の推移

内閣府「男女共同参画白書」(平成27年版)より

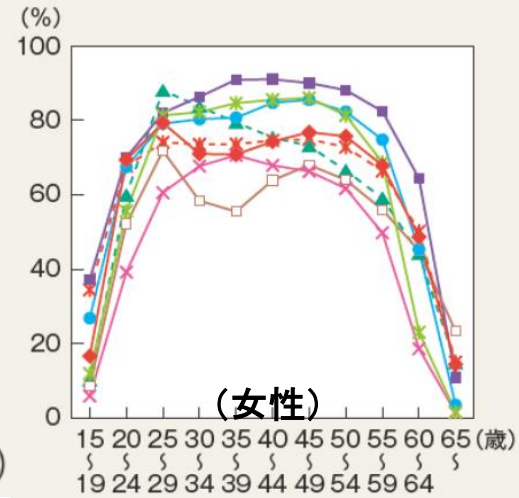


字型



この現象がみられるのは
日本と韓国 ぐらい

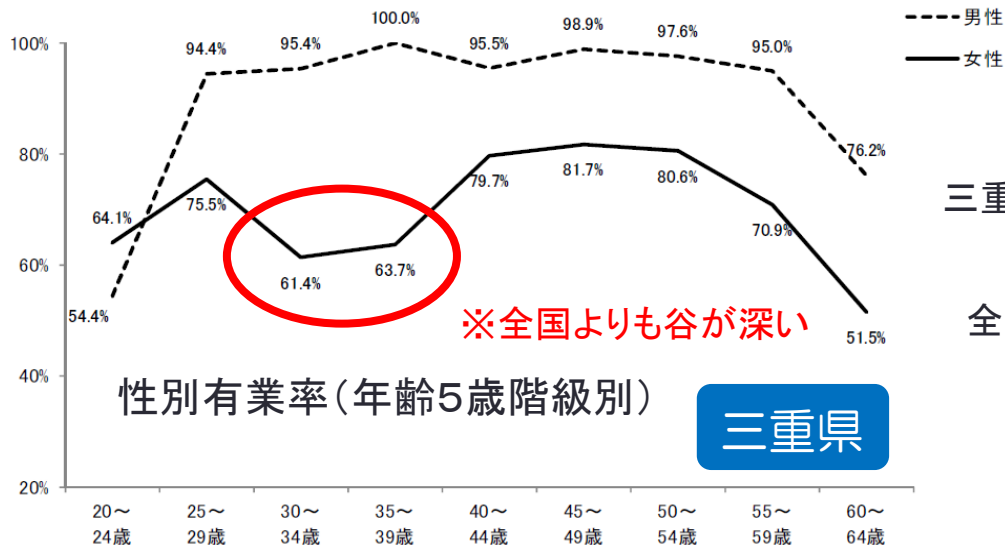
主要国における
年齢階級別労働力率



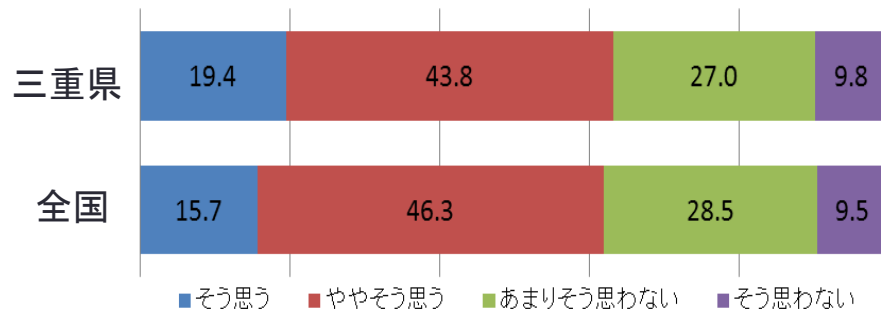
(備考) 1. 総務省「労働力調査 (基本集計)」より作成。
2. 「労働力率」は、15歳以上人口に占める労働力人口 (就業者+完全失業者) の割合。



*女性の就業について



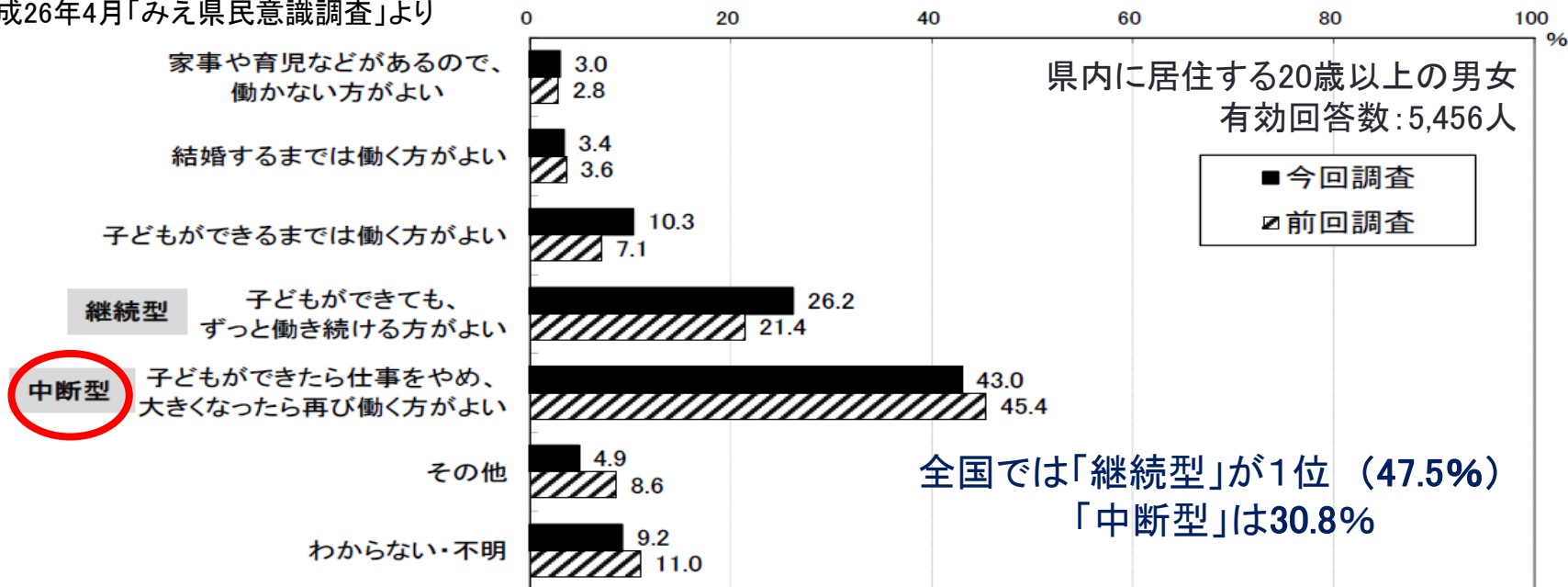
「子どもが小さいうちは、母親は外で働かない方がよい」と思いますか



内閣府「地域における女性の活躍に関する意識調査」(平成27年6月)より

(備考) 農林水産業、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員など、その他職業を有業とした。

平成26年4月「みえ県民意識調査」より



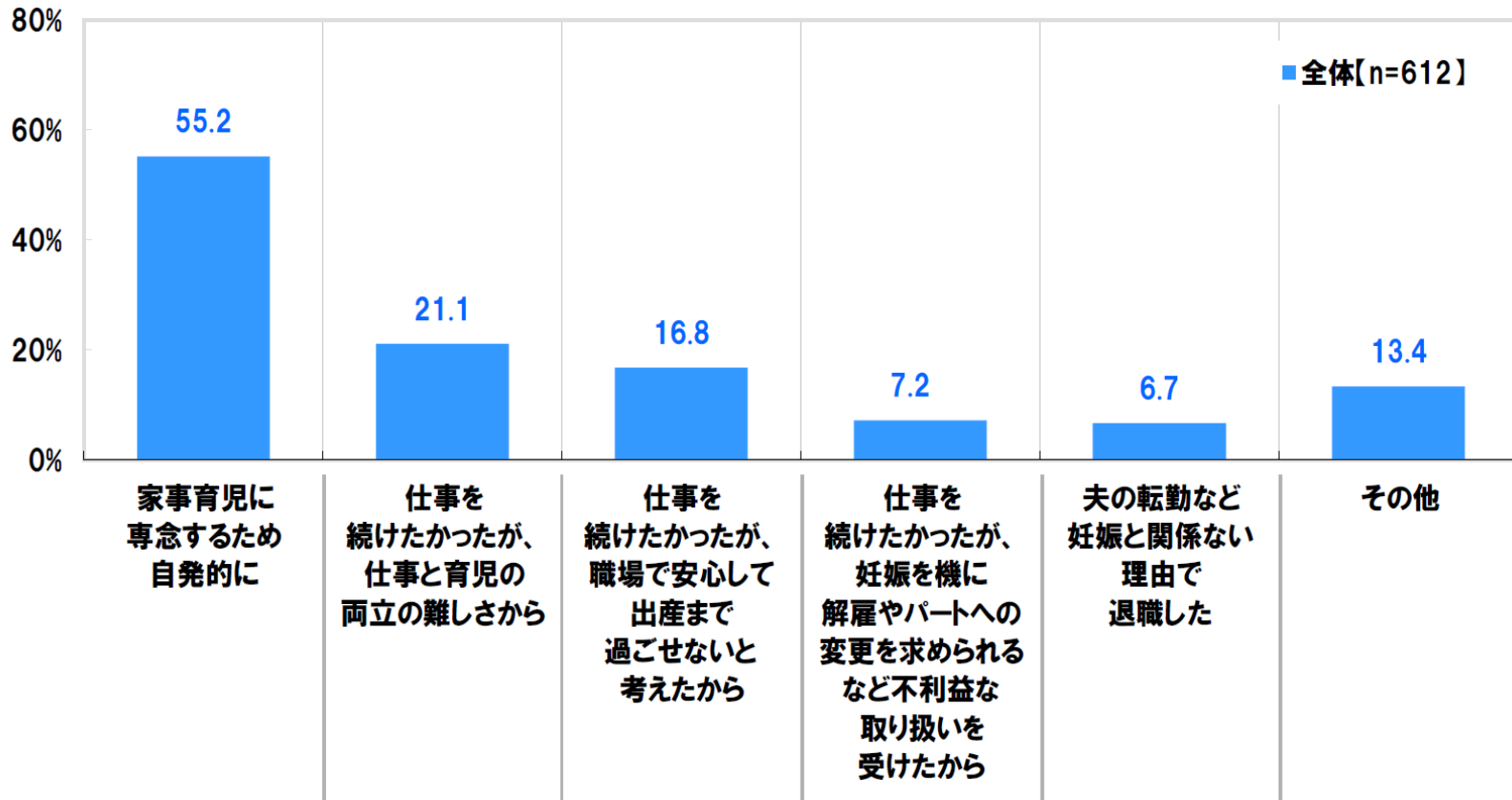
＊妊娠と働く女性をめぐる現状

妊娠後に仕事を辞めた理由

仕事を辞める一番の理由は「家事・育児に専念するため」

しかし、「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかった」という声も半数近くある。

◆妊娠後に、当時の仕事を辞めた理由 [複数回答形式] 対象：妊娠後に、当時の仕事を辞めた人

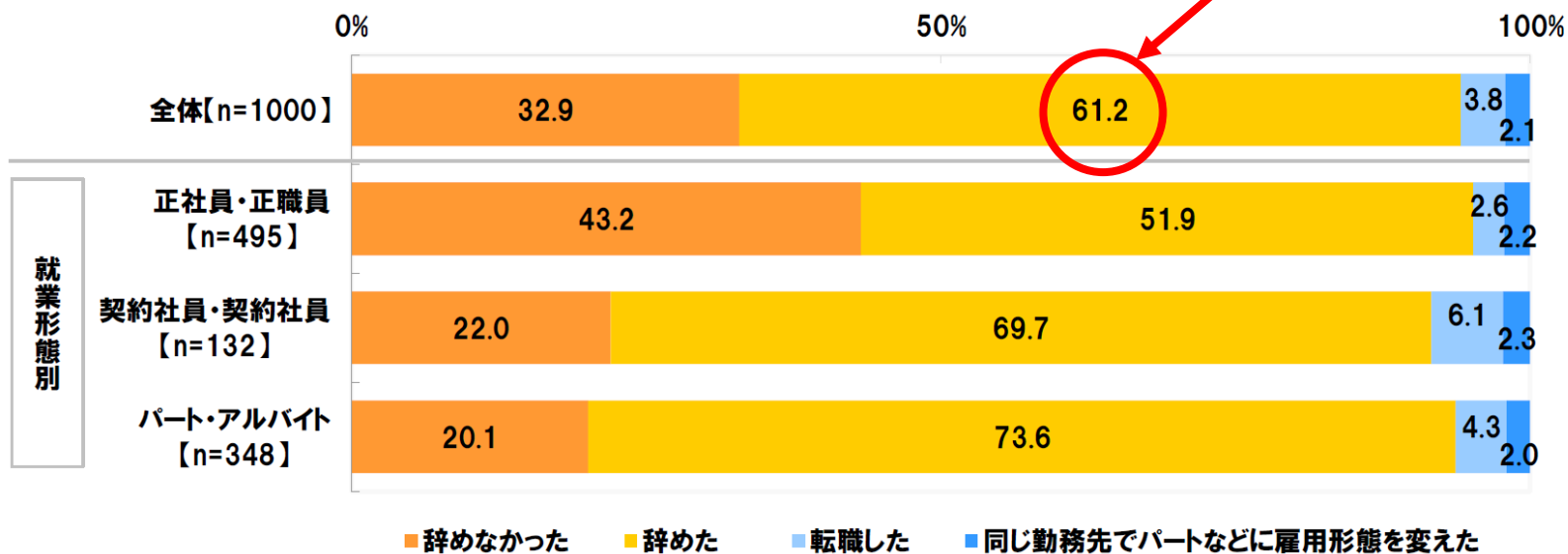


*妊娠と働く女性をめぐる現状

妊娠を機に仕事を辞める人は、まだまだ多く、特に非正規雇用者は正社員よりも多い現状にある。

妊娠した女性のうち、**6割**の人が仕事を辞めている

◆妊娠後に、その当時の仕事を続けたか、辞めたか [単一回答形式]



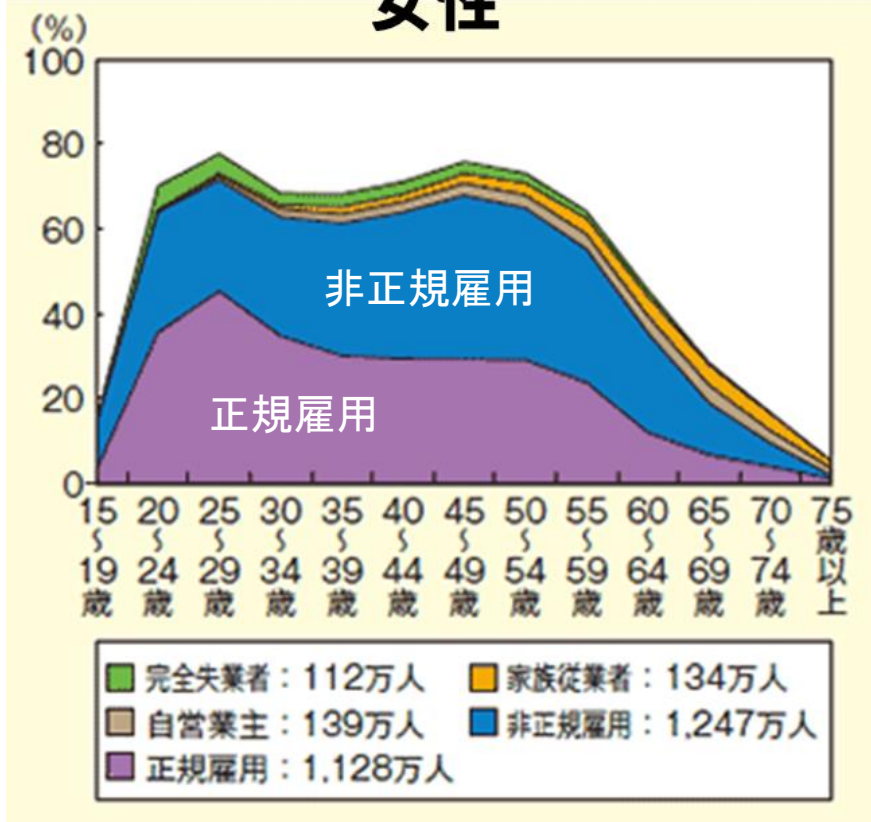
*女性の就業について

年齢階級別労働力率の就業形態別内訳 (男女別、平成25年)

資料: 内閣府「男女共同参画白書」(平成26年版)

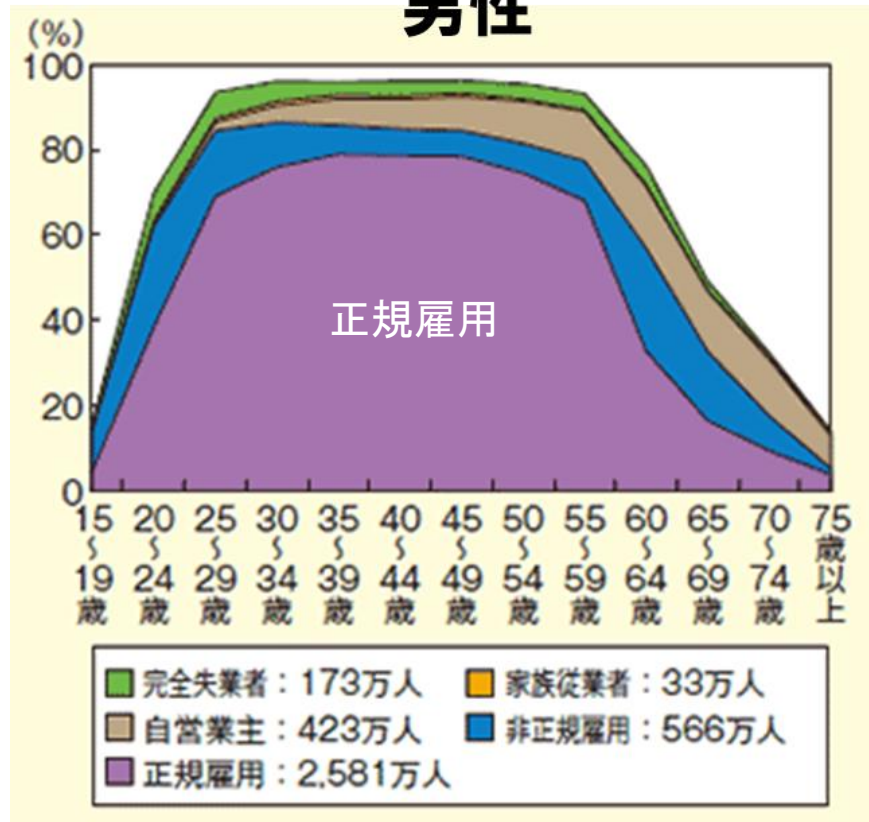
女性は“M字の谷”の後も正規雇用は上がらない

女性



“M字の谷”の後も正規雇用が上がらない女性

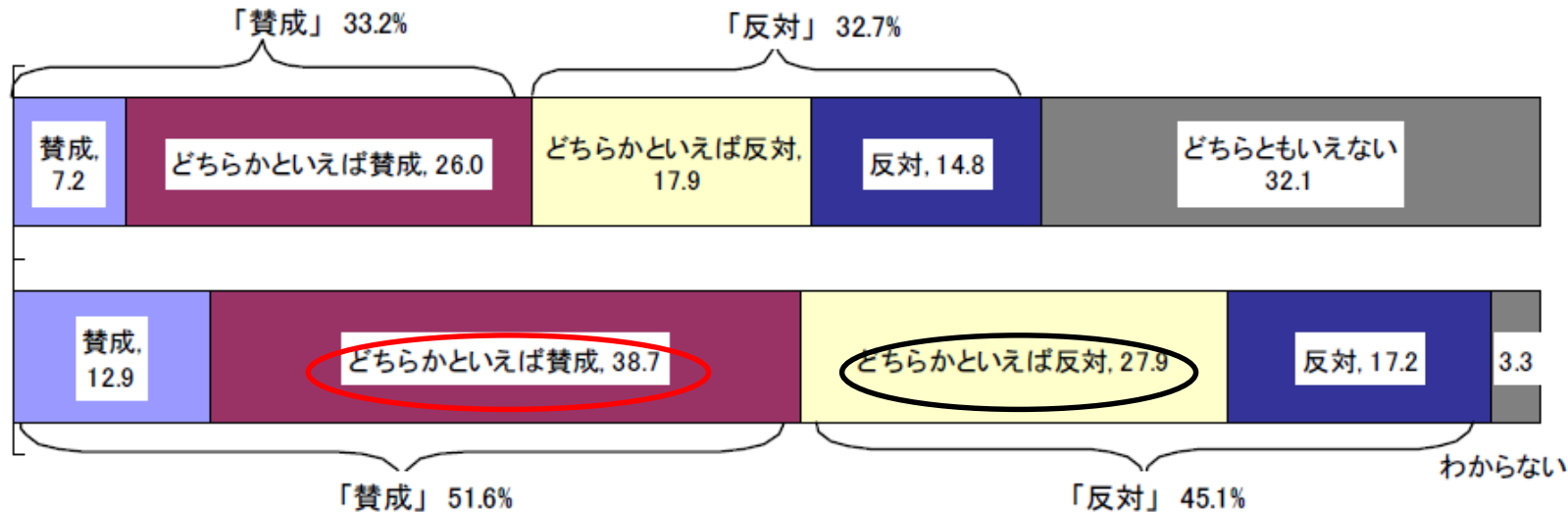
男性



非正規雇用割合が増加する男性(特に若年層)

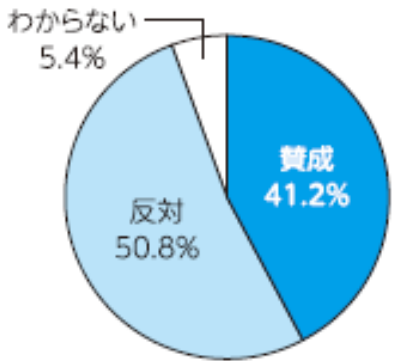
*女性も働いているのに、意識は変わらない

「男性は仕事・女性は家庭」に



平成25年4月「みえ県民意識調査」より

東員町

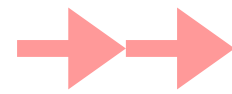


フレンテみえ

「統計でみる三重の男女共同参画データブック」(平成24年3月)より

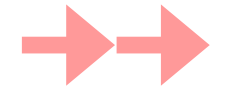
ちなみに、別のところ調査では…

夫の家事分担量



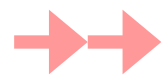
(三重県) 全国ワースト3位

「妻(家事の負担は)今のままでいい」



全国1位

夫婦関係は「良好」である

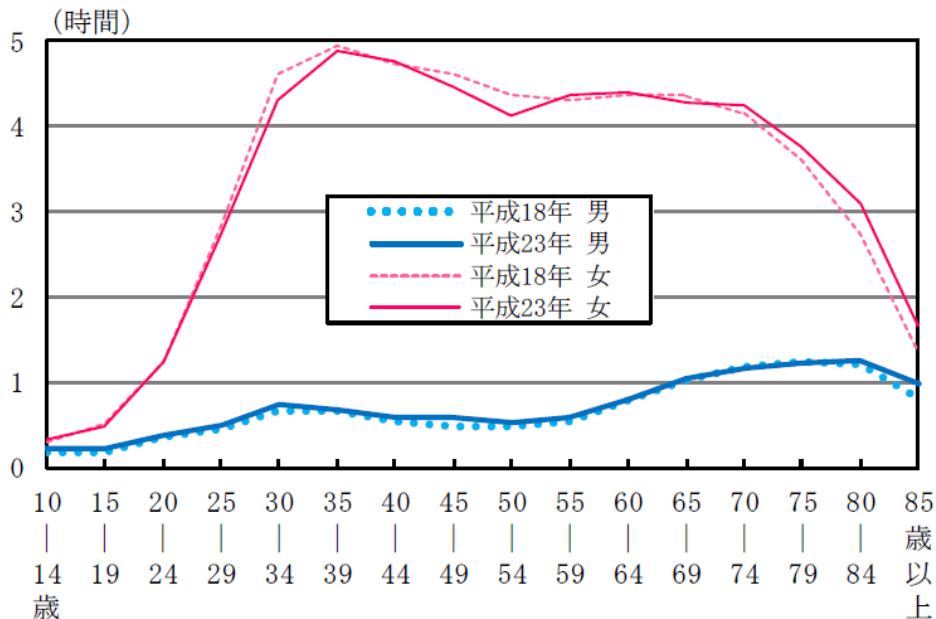


全国43位 (ワースト5位)

キリンビール「ごちそう夫婦全国調査」結果(平成23年/12月)
30・40代既婚男女、各都道府県400人、計18800人

*男女の家事関連時間の比較

男女 年齢階級別家事関連時間



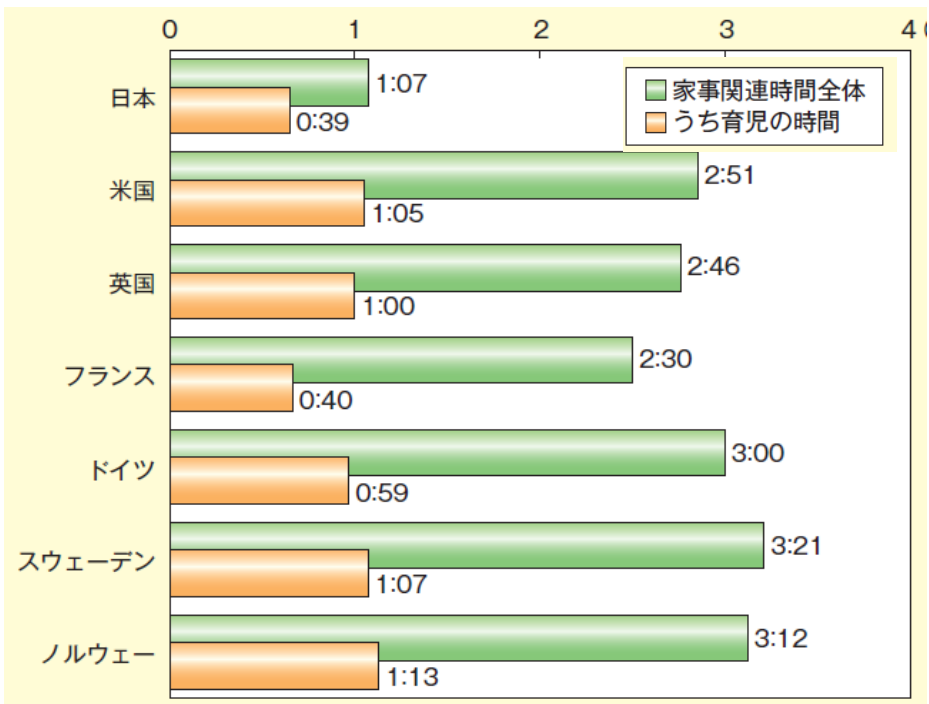
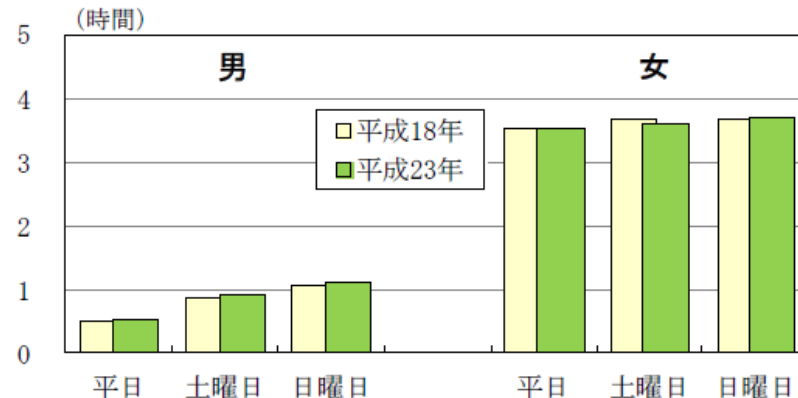
男性はほとんどの年齢階級で家事関連時間が増加しているが、男性が42分、女性は3時間35分と男女の間に依然として大きな差が見られる

日本の男性は世界と比較すると家事・育児にかかる時間がとても少ない

6歳未満児のいる夫の家事育児関連時間

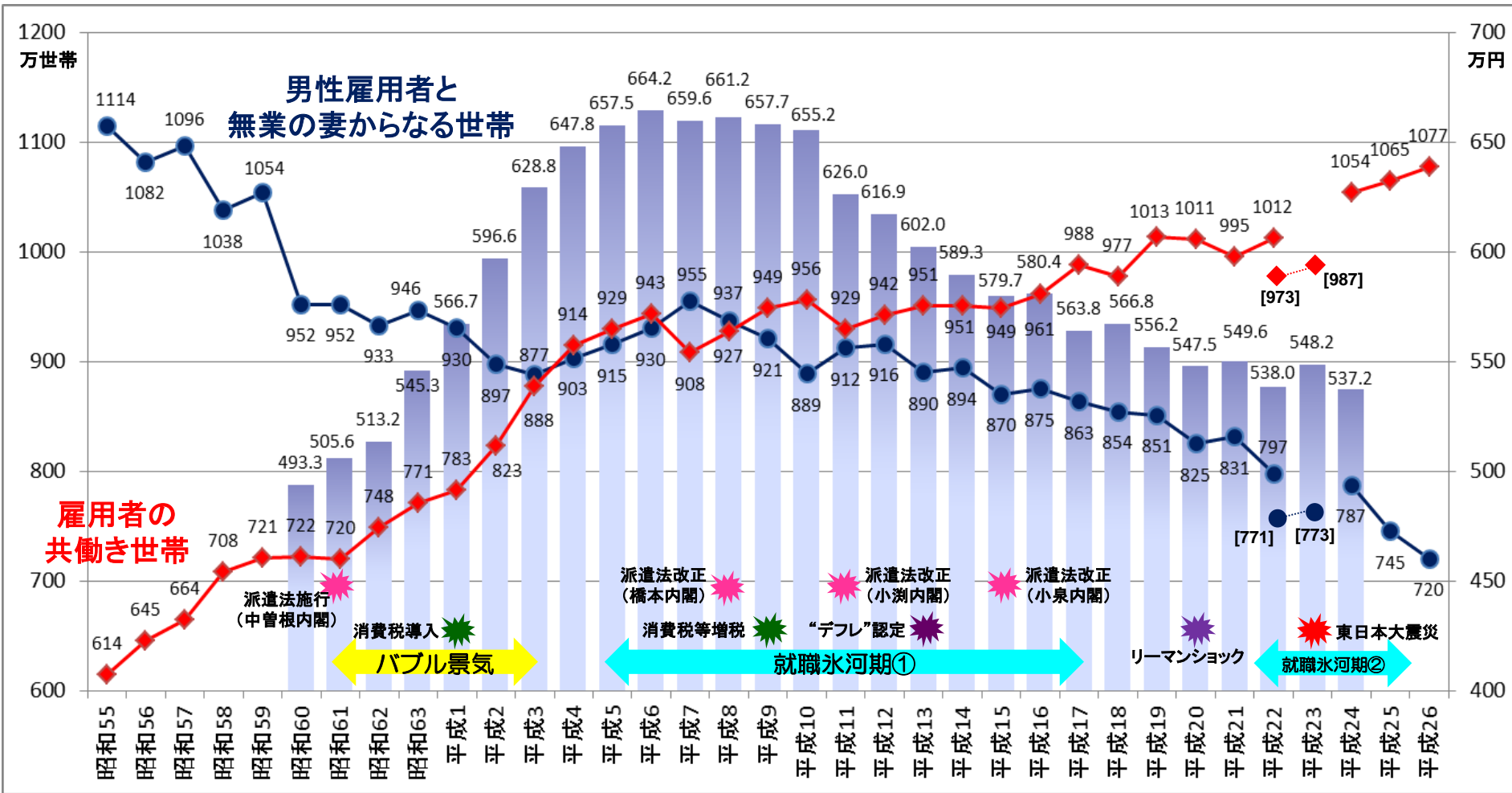
資料：内閣府「男女共同参画白書」（平成25年版）より

平成23年「社会生活基本調査生活時間に関する結果(総務省)」より



*片働き・共働き世帯と世帯当たり平均所得金額の推移

共働き世帯が片働き世帯を逆転（H9以降）・・・共働き 1077万 > 片働き 720万（H26）



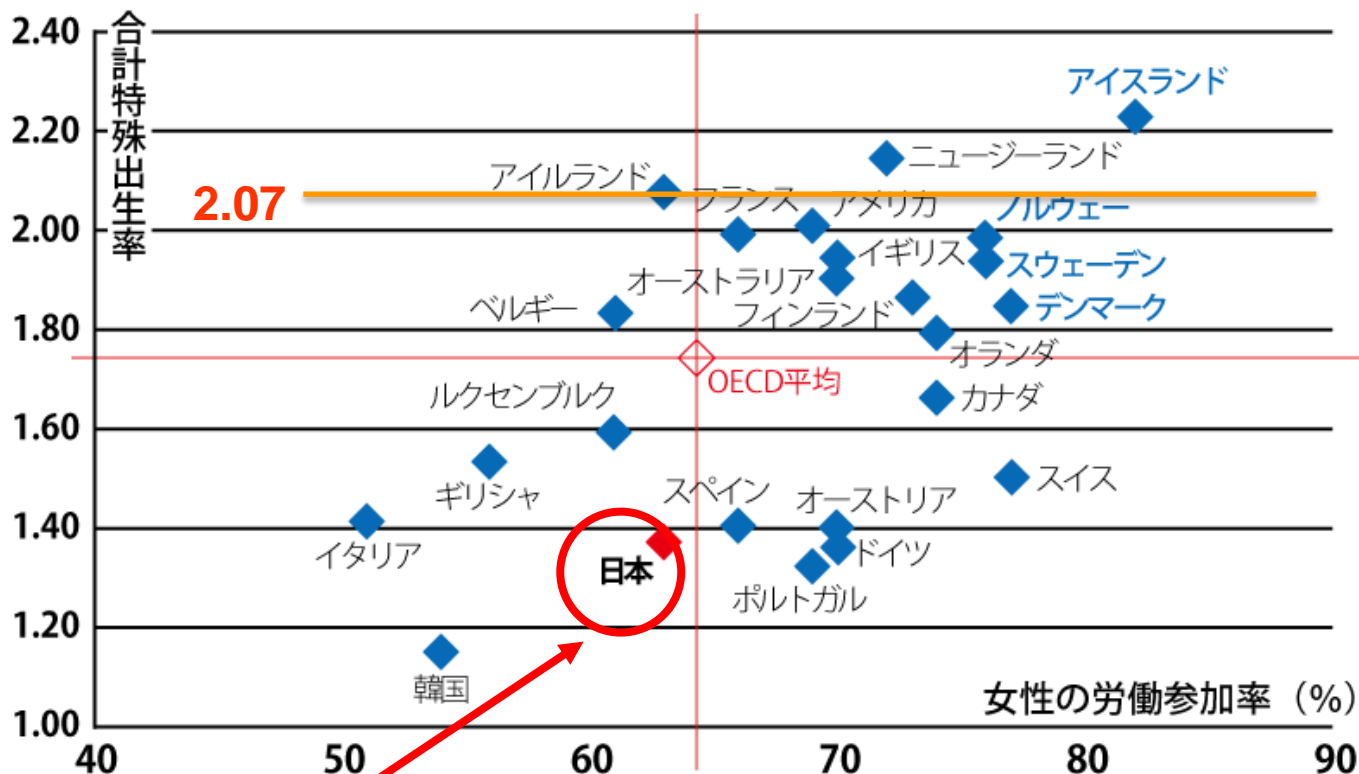
内閣府「男女共同参画白書」（平成27年版）および厚生労働省「グラフでみる世帯の状況」（平成26年）より作成

平均所得金額：平成22年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたもの。平成23年の数値は、福島県を除いたもの
 片働き・共働き世帯数：非農林業雇用者数。平成22年及び23年の[]内の実数は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

*女性の労働参加率があがると出生率はあがる！

女性が仕事を続けると子どもが生まれず、
ますます**少子化**が進んでしまう、と思いませんか？

女性の労働参加率と出生率（2009年）



1人の収入で育てられる
子どもの数

40年前 = 3人
現在 = 1.3人

子どもを2人以上育てるには
「ダブルインカム」が必要

子育て支援環境の整備
男性の家事育児参画

男女とも家庭・仕事の両立

日本は、女性が
社会進出できず
子どもも少ない

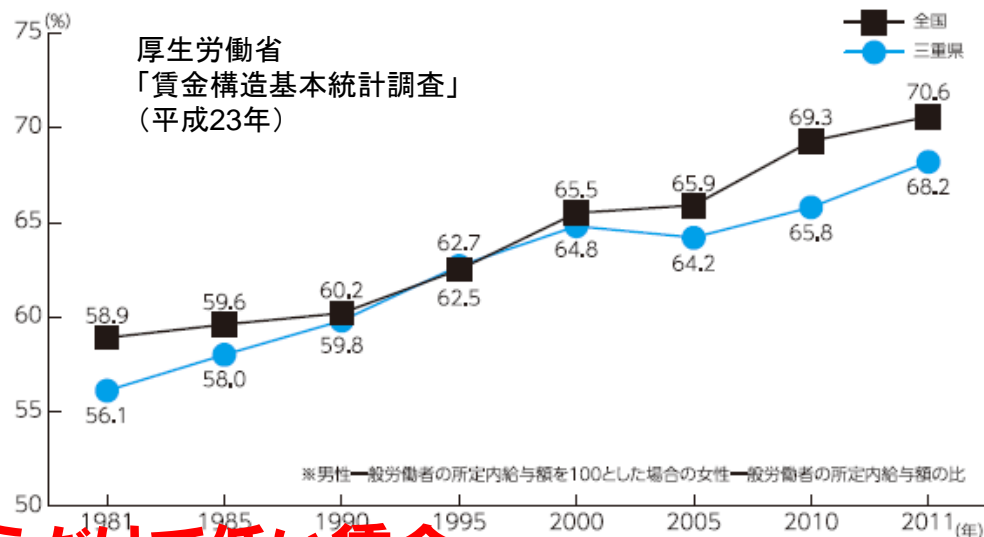
参考：(出典) 2009年女性労働参加率：OECDジェンダーイニシアチブレポートP58、2009年出生率：OECDデータベースをもとに、内閣府男女共同参画局で作成。
注) 「少子化と男女共同参画に関する社会環境の国際比較報告書（平成17年9月 男女共同参画会議少子化と男女共同参画に関する専門調査会とりまとめ）における分析対象国（当時のOECD加盟30か国中24か国）を対象としている。

*男女の賃金比較

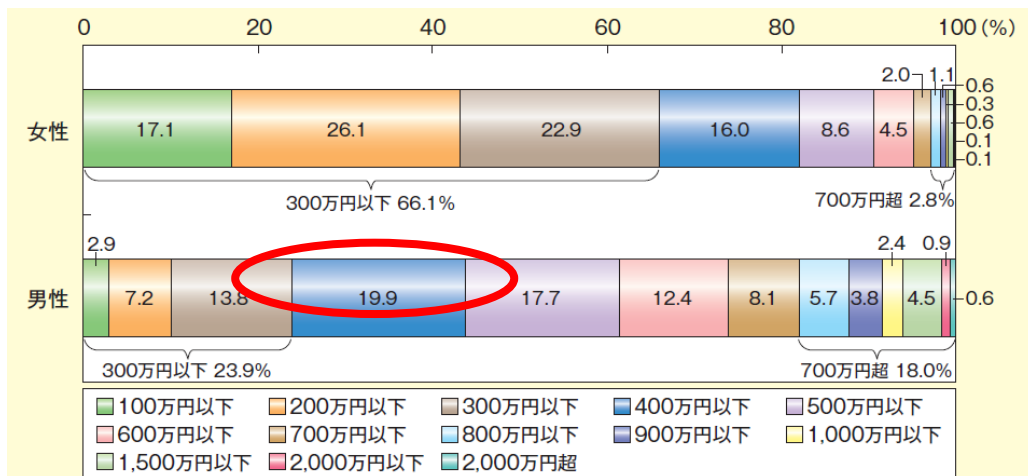
三重県の女性の賃金は
男性の約2/3である

所定内給与額格差の推移 (三重県、全国)

さらに、女性短時間労働者の1時間あたりの労働単価は、一般男性労働者の約半分
非正規割合は全年代で女性の方が高い



同じように働いても、女性というだけで低い賃金



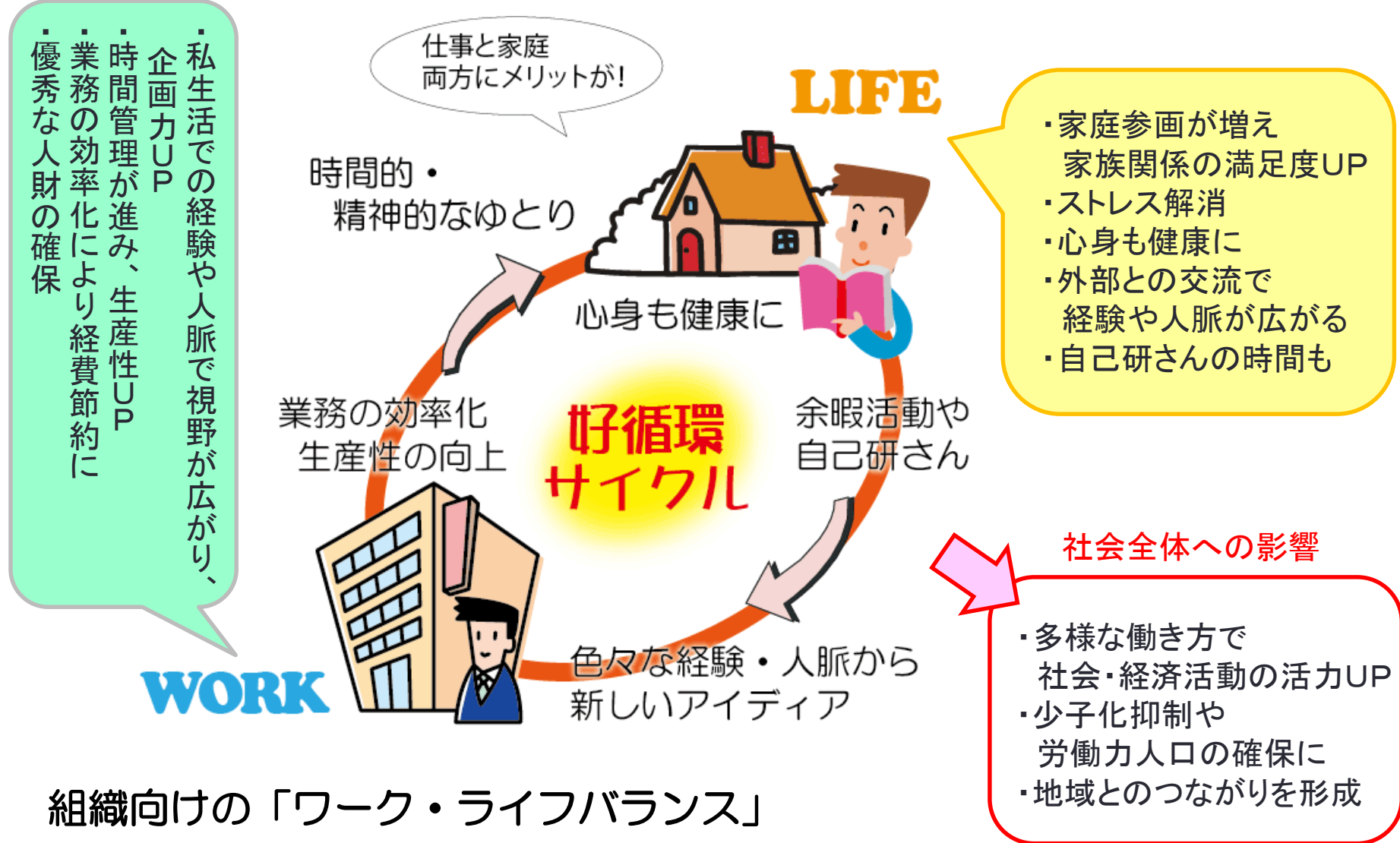
女性の給与所得
約2/3が300万円以下
(男性は約1/4)

給与階級別 給与所得差の構成割合
(男女別・全国・平成23年)

資料: 内閣府「男女共同参画白書」(平成25年度版)

(備考) 国税庁「民間給与実態統計調査」(平成23年分)より作成。

*男女が働きやすい社会へ ワーク・ライフバランス



組織向けの「ワーク・ライフバランス」

変化した社会構造に対応し、組織を健全に安定・持続させるために
これからの「**経営戦略**」として重要かつ必要不可欠な意識

*男女が働きやすい社会へ ワーク・ライフバランス

社会的ニーズ

少子・超高齢化

労働力人口の減少

地域の繋がり希薄化

継続就業の促進
長時間労働の是正

社会保障の維持
少子化への歯止め
経済社会の活力向上

個人的ニーズ

仕事・家庭の両立困難

啓発・地域への参加困難

長時間労働の悪影響

希望バランスの実現
個性・ライフスタイル

人間らしい生活

まずは、男女とも

「個性・多様性の尊重」

育児・介護等をしながらも
働き続けられる社会に

いきいきと働き続けながら
育児・介護も担えるように！
“幸福度の高い毎日”への第一歩

なぜ、求められているのか

2007年問題

人財減少・流出

利益の減少・損失

生産性向上・効率化
従業員の健康確保

人財の獲得・定着
コスト節減
組織の継続・発展

優秀な人財が長く働き
付加価値のあるサービスを！
人口減少社会を生き残る第一歩

組織的ニーズ